

つがるいし おど 津軽石さんさ踊り

- ◇ 指定日 平成21年5月21日
- ◇ 所在地 津軽石
- ◇ 保持団体 津軽石さんさ踊り保存会

津軽石さんさ踊りは、海産物を商った五十集衆が寛永年間(1624-43年)に盛岡のさんさ踊りを習い覚えて伝わったとされています。寛政年間(1789-1800年)の頃より本格的に踊られ、大正時代にたてしたまんた館下万太氏(旧姓・大坪)が津軽石新町に伝えてますます盛んになり、現在の形態になりました。

毎年、津軽石稻荷神社の祭典で神輿の御供をした後、地区の家をまわってかどう門打ちを行います。

花笠をかぶり、五十集を運んだ荷車を表わす車輪の柄の浴衣を着て右袖を脱ぎ、腰から3色4本のしごき(赤・青・黄)を垂らします。基本の隊形は輪踊りで、太鼓を先頭に笛・踊り手の順に進んで、輪になり、「サッコラ、コラサノヤッセ」のかけ声と共に踊ります。

演目…庭踏み、一番から十番の10曲

